

SNW対話イン鹿大 2013 事後アンケート結果 (平成 25 年 9 月 17 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 77 名

(内訳)	・2 年	1 名
	・3 年	67 名
	・4 年	9 名

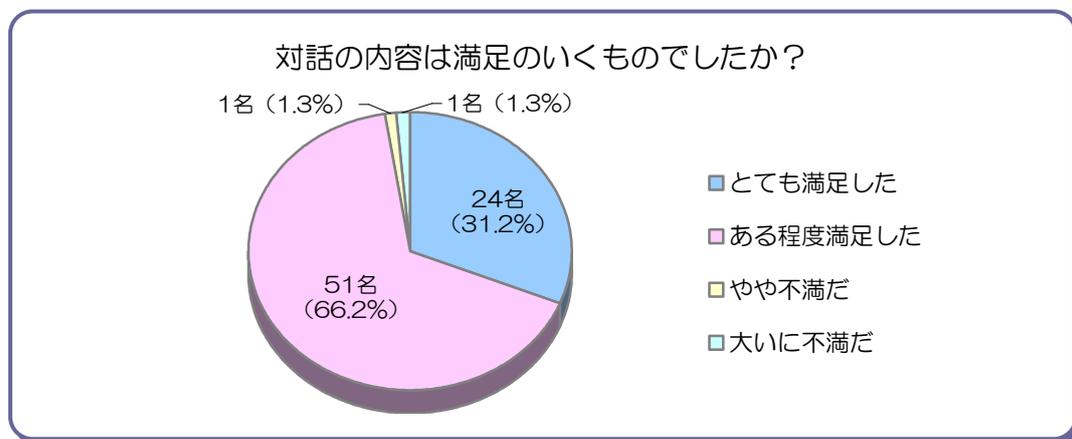
2. 対話会について

(1) 対話の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した	24 名 (31.2%)
ある程度満足した	51 名 (66.2%)
やや不満だ	1 名 (1.3%)
大いに不満だ	1 名 (1.3%)

「とても満足した」と「ある程度満足した」を加えると、97%になる。

「やや不満だ」の回答は、“シニアの話を聞くだけになってしまい対話できなかった、もっと積極的に話すべきだった”であり、また、「大いに不満だ」の回答は“対話ではなく、自分の話を一方的にされただけで、さらに目新しい情報が特になかったため”であった。



<理由>

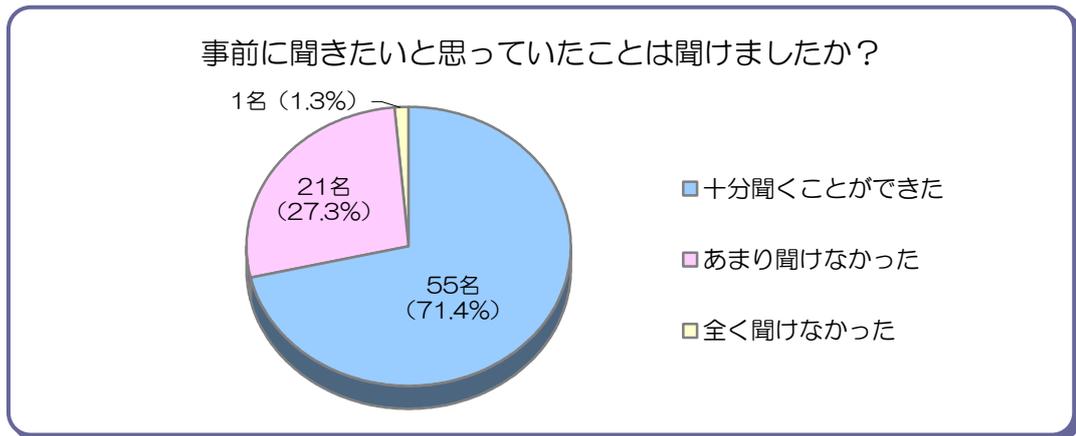
- 原子力の疑問に思っていることが聞けたから。
 - ・ 各人のいろいろな質問に対して詳しく回答を返してくれたから。専門的見地から様々な意見が聞けたから。
 - ・ ニュースで見る以上の話が聞けてよかった。
 - ・ マスコミ、原子力、放射線についての理解が深まった。
 - ・ 普段の生活では聞けない、専門の方の生の対話だったから。
 - ・ 原子力に関して知りたかったことを知ることができた。
 - ・ シニアの方が原発について丁寧に説明して頂いたので満足だった、少し時間が足りないようにも思えた。

- 学生だけでは気付くことのない点まで意見を交えて対話することができた。
 - 原子力は危険とばかり思っていたが、安全対策もしっかりされていることを知ることができたから。
 - 先生達の有意義な話を聞くことができたが、もう少し勉強してからにしたかった。
 - 普段聞けない話や、初めて知ったことが多かった。
 - 理解のある人の意見を聞けることは貴重だと思ったから。
 - 一つ一つの質問について議論してくれたから。
-
- 対話ではなく、自分の話を一方的にされただけで、さらに目新しい情報が特になかったため。
 - もう少し学生同士で話し合いたかった。
 - もう少し時間が欲しかった。
 - いろいろな意見を聞くことができたが、自分が発言することができなかったから。
 - 自分の意見を存分に言う事が出来なかった。
 - 学ぶことが多く新鮮なものになったが、生徒同士の意見をもう少し聞きたかった。
 - 時間が少し少なかった。
 - シニアの話を聞くだけになってしまい対話できなかった、もっと積極的に話すべきだった。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた	55名 (71.4%)
あまり聞けなかった	21名 (27.3%)
全く聞けなかった	1名 (1.3%)

7割が「十分聞くことができた」と答えているが、「あまり聞けなかった」の回答も3割近くある。



(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・ 同世代の学生が原子力についてどのような考えを持っているか知ることができた。
 - ・ 原子力発電について他の人の考えを聞いたこと。
 - ・ 自分がどれだけ偏った知識を持っていたかわかった。
 - ・ 原子力の安全性について確信的な信頼が持てた。
 - ・ 今後のエネルギー確保をどうしていくかというベストミックスと原子力に関する知識。
 - ・ 原発の必要性和安全管理について。
 - ・ 原子力について今まで知らなかった知識が得られた。
 - ・ 原子力発電の安全性の基準が自分が思っているより、はるかに高かったこと。
 - ・ 原子力に関する知識となによりも原子力に対する関心。
 - ・ 原子力発電の安全性と危険性。
 - ・ 放射線やマスコミの知識。
 - ・ メディアは大きすぎであり、情報を鵜呑みにしないこと。
 - ・ 原子力が日本のエネルギー政策に重要なものであること。
 - ・ 多くの情報の中から何が正しいか自分で判断をしていかなければならないということ、原発に對しての誤解を解消することができた。
 - ・ 原子力についての自分が知らなかった正しい知識。
 - ・ 実際に働いている方々のリアルな意見。
 - ・ 原発再稼働に対する自分の意見。
 - ・ これからの日本のエネルギー問題について理解を深めることができた。
 - ・ テレビや新聞だけでは分らないことをいろいろと聞いた。
 - ・ 原子力について何も知らないのに勝手に危険だと思い込んではいけない、正しい情報を自分で調べる必要があるということ。
 - ・ 原発事故の原因や今後の安全対策。

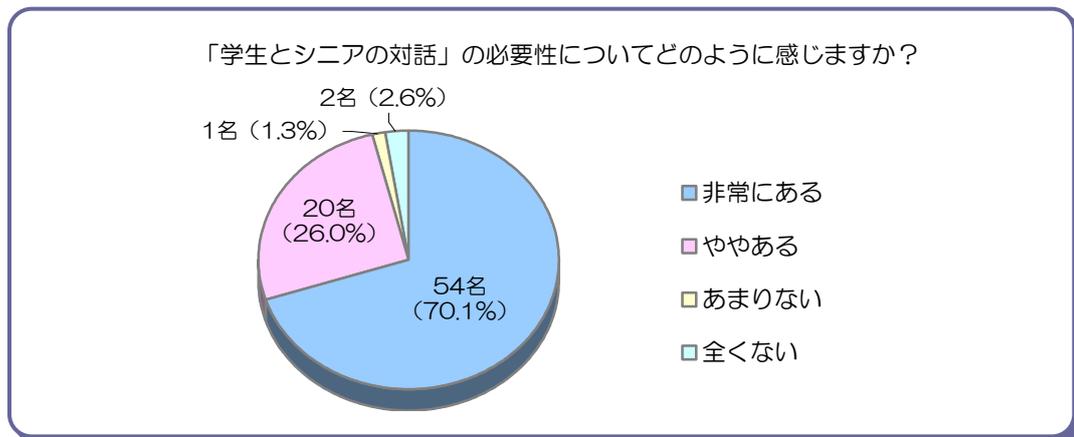
- ・ 特にない。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	54名 (70.1%)
ややある	20名 (26.0%)
あまりない	1名 (1.3%)
全くない	2名 (2.6%)

「非常にある」と「ややある」を加えると9割を超える。

「あまりない」の回答者は“予備知識がなさすぎる”、“全くない”の回答者2名は、“対話にならないため”、“ネットで分かる内容であった”の理由であった。



<理由>

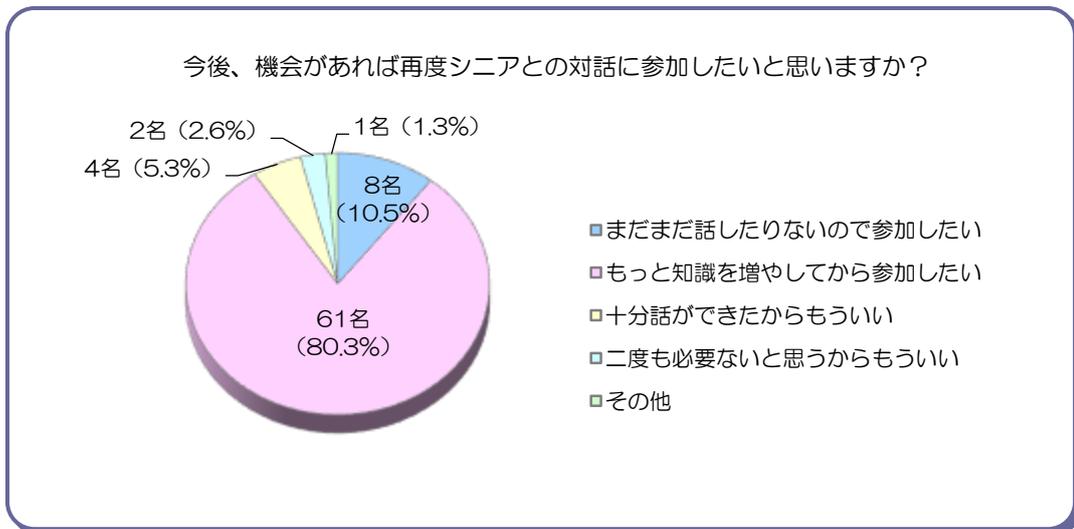
- 自分が考えたことがなかった面から詳しい話を聞くことができるため、自分の考えの幅が広がる。
 - ・ 現場での体験や経験、専門知識は非常に参考になるから。
 - ・ 現場の人の意見を聞いて、テレビなどでは得ることのできない知識を得ることができた。
 - ・ 学生が学んだことが正しいのか、また、自分の考えていることが正しいのかどうかを、シニアの皆さんと対話することにより確認できるという点。
 - ・ 原子力の専門の人から意見が聞けることはとてもいいことだと思ったから。
 - ・ 授業では得られない知識を得られるから。
 - ・ 普段の講義とは全く違い、日本の電力事業を支えて来た方々の意見は、今後自分達の世代が担う日本にとって大変貴重なものであるから。専門家からしか得ることのできないお話もあると思うから。
 - ・ 普段、専門の方と話す機会を得られることは少ないので、非常に意味のあるものだと思う。
 - ・ 私自身、先入観だけで原子力は危ないと思っていたので、シニアとの対話で正しい知識を得ることはとても重要だと思ったから。
 - ・ 現場で実際に働いていた方の意見や体験談を聞けるので非常に貴重なことだと思うため。
 - ・ 目上の人とこのように対話する機会はほとんどないので、良い経験になるから。
 - ・ 学校では少し勉強しているが、現場の声を聞くことでよりリアルに現状を知ることができる。
 - ・ 講義だけでは分らない、いろいろな人の物の考え方を知ることができるから。
 - ・ シニアの方が詳しく教えてくださるので、こういった対話会の必要性はとても高いと思う。

- ・ 対話にならないため。
- ・ 予備知識がなさすぎる。
- ・ 事前にもっと意識しておきたかった（テーマを知っておきたかった）。
- ・ 貴重な話を聞けたが、自分の考えを延々と述べられている感も否めない。
- ・ 知識にバラツキがあり、言っていることが分からないこともあった。
- ・ ネットで分かる内容であった。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	8名 (10.5%)
もっと知識を増やしてから参加したい	61名 (80.3%)
十分話ができたらもういい	4名 (5.3%)
二度も必要ないと思うからもういい	2名 (2.6%)
その他	1名 (1.3%)

「まだまだ話したりないので参加したい」に「もっと知識を増やしてから参加したい」を加えると9割を超える。また、「その他」の1名は“もっと放射線のことを教えてもらいたい”と回答している。

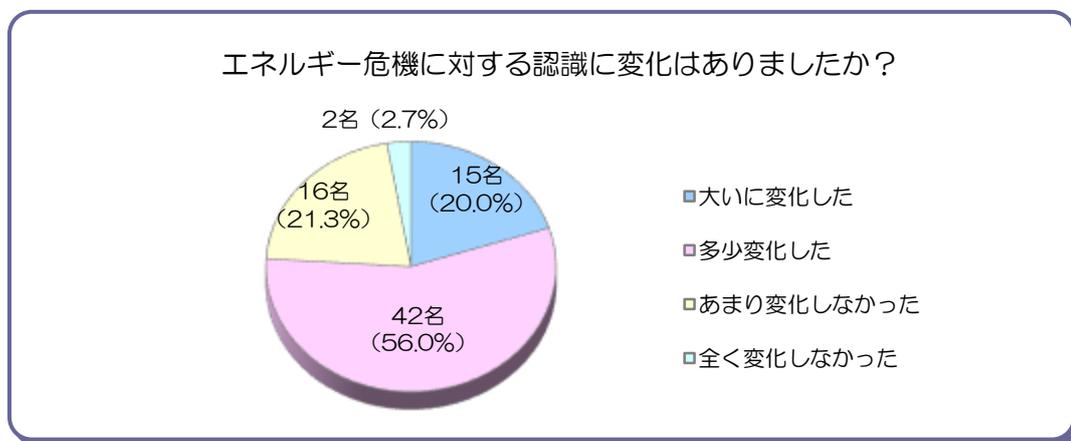


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	15名 (20.0%)
多少变化した	42名 (56.0%)
あまり变化しなかった	16名 (21.3%)
全く变化しなかった	2名 (2.7%)

8割近くが「大いに变化した」又は「多少变化した」と回答している。

また、「全く变化しなかった」との2名の回答者は、1名は“新たな情報が特になかった”、1名は“もともと原子力は必要だと思っていたし、エネルギー問題に対する知識はある程度あったから”の理由であった。



<理由>

- 原発は必要、ただ、安全面にも対策が必要。
 - エネルギー自給率や再生可能エネルギーの割合の低さは認識していなかったため、今の状況に危機感を覚えた。
 - エネルギー危機に対する認識がすごく变化した、原発が止まっているせいで火力発電がフル稼働している、そのため原油をかなり使っている、そのせいで日本は赤字になっていく。
 - 今までは無知であったため、あまり100、200年後のことを考えたことはなかったが、これからどんどん資源は高くなり、量も少なくなると聞き、将来がとても心配になった。
 - 原子力を使わなくても他のエネルギーで補えるのではないかと思っていたが、そうではないと思った。
 - やはり原子力が動いていないと資源の消費なども多くなり、原子力は必要だと思った。
 - 資源やそれぞれの発電方法の特性を考慮してエネルギーのバランスを考えなければならぬと分かったから。
 - 日本のエネルギー自給率は4%であるから、少量で多くのエネルギーを得られる原子力は必要。
 - 原発事故があってどのようなエネルギー状態かわかった。
 - 報道されている内容と違うこともあり、考えが变化したところがあった。
 - 足りていないということは知っていたが、どれだけ足りていないのかを具体的に知ることで、原子力に対するイメージも変わった。
 - エネルギー問題について、もっと危機感を持つべきだと思った。

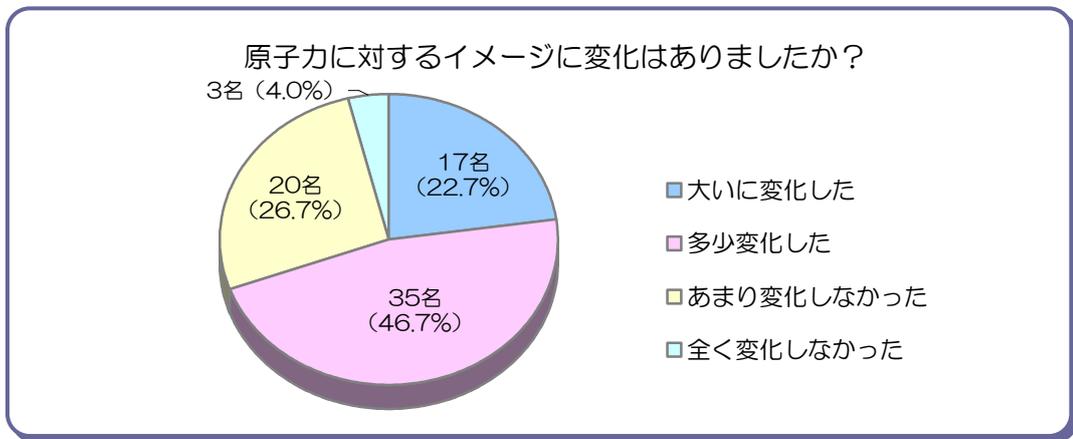
- ・ 変化なし。新たな情報が特になかったため。
- ・ 持っていた考えとあまり変わらなかったから。
- ・ エネルギー危機についての話をしていないから。
- ・ もともと原子力は必要だと思っていたし、エネルギー問題に対する知識はある程度あったから。

(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した 17名 (22.7%)
多少变化した 35名 (46.7%)
あまり变化しなかった 20名 (26.7%)
全く变化しなかった 3名 (4.0%)

「大いに变化した」と「多少变化した」を加えると7割近くになる。

「全く变化しなかった」と回答した3名の理由は、1名は“新たな情報が特になかった”、1名は“もともと原子力が必要であると思っていた”、1名は“ある程度の知識はあった”である。



<理由>

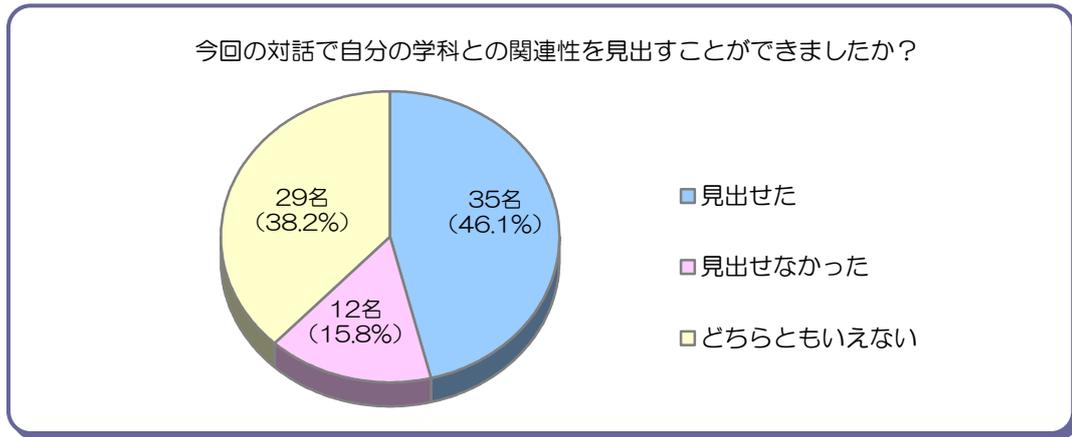
- マイナスのイメージからプラスへと変わった。
 - ・ いろいろな安全策がとられているという事実を知ることができ、よかったと思う。
 - ・ もともと必要だと思っていたが、今回の対話でその思いが強まった。
 - ・ 福島原発の事故があったため、原子力に恐れを感じていたが、今回の対話会で安全だということを知った。
 - ・ 火力発電と同じように、発電の1つだと思えるようにイメージが変化した。
 - ・ 福島の事故があったため安全性が不安だったが、今までよりさらに厳しい基準ができていて、さらに安全であると理解した。
 - ・ 原子力に関する正しい知識を得たことで原子力を一方的に「悪」としない、正しく怖れることができるようになったため。
 - ・ 原子力については知らないことばかりだったので、勝手に原子力について悪いイメージばかり思っていたが、その考えが全く変わった。
 - ・ 頭ごなしに反対はいけなかった。
 - ・ ある程度は必要だと感じた。
 - ・ 原子力は廃炉に向かうべきではないことがわかった。
 - ・ 安全面が想像以上にしっかりしていた。
 - ・ 方法を間違えると大変でハイリスクだと思っていたが、今回はそれ以上に日本にとっては使用する上でメリットもあるとわかった。

- メディアからの危険だという情報しか私にはなかったので、今回の対話でそんなものではないということが分った。
 - もともと正しく利用すると非常に有益なものであることを分っていたので、そのイメージがさらに大きくなった。
 - 危険でもあるが必要かも知れない。
-
- 安全対策をよく考えられているのだと思っていたが、やはり少し不安は残ると思った。
 - 今は原子力に頼らなければ電力が足りないのだから仕方ないと思っていたが、福島原発は今も手をつけられない状態で、この状態が数十年続くと聞いて少し不安になった。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた 35名 (46.1%)
見出せなかった 12名 (15.8%)
どちらともいえない 29名 (38.2%)

「見出せなかった」、「どちらともいえない」を加えると5割を超え、「見出せた」との回答者の方が閉める割合が若干低い。



<理由>

- プラントは機械系の仕事ととても関連しているから。
 - ・ 原子炉建屋などの外壁など、決して外にもらさないとといったような建材や丈夫さなど建築につながったと思う。
 - ・ 材料の亀裂などを探することができるところ。
 - ・ 機械による遠隔操作をより高度なものとしたい。
 - ・ 自分の学科は耐震構造とかを考える学科なので、原子力発電所の防壁を作れるなあ、と思った。
 - ・ 化学的な関連性はあると思った。
 - ・ 環境を守ることにに関して見出せた。
 - ・ 私達の学科での学習内容とエネルギーとが少しリンクするところがあったため。
 - ・ 原子炉を守る建物の強度、性質など。
 - ・ 原子力発電に用いられる原子炉や冷却に使われるポンプなどは、機械工学と関係があるのかなと思った。

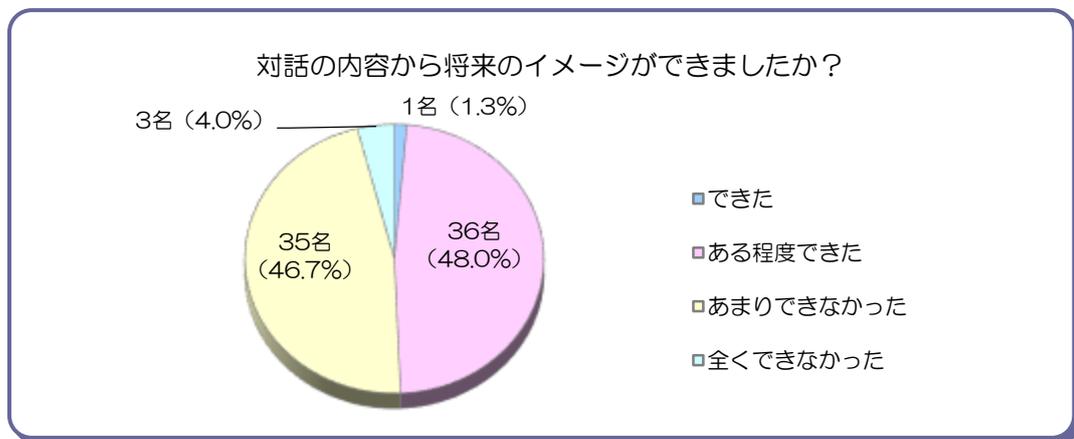
- 具体的なものが考えつかなかったが、技術者をしていたら多少は見出せたかも。
 - ・ そこまでは理解できなかった。
 - ・ 話の内容で理解しにくい部分もあったから。
 - ・ 自分の学科が原子力のためにどう活躍できるのか分らなかった。
 - ・ 関連があるようなことは話さなかったから。

(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた 1名 (1.3%)
ある程度できた 36名 (48.0%)
あまりできなかった 35名 (46.7%)
全くできなかった 3名 (4.0%)

回答が「自分の将来像」と「エネルギー政策の将来像」をイメージした回答に二分した。

「ある程度できた」と「あまりできなかった」の回答者がほぼ同数で、「できた」と「ある程度できた」を加えても半数を超えない。



<理由>

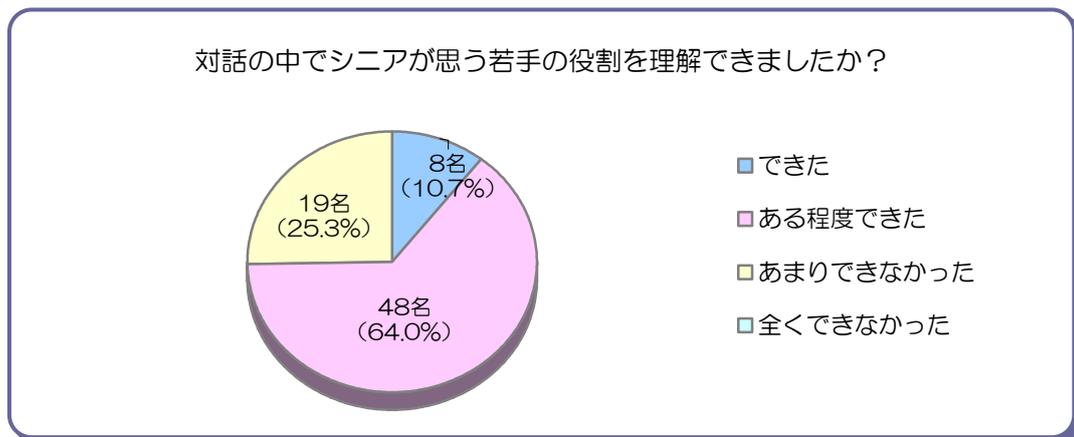
- ・ 現時点で、エネルギー問題に対する解答がないことが十分にわかったため、自分がそれをできる人間になろうと思った。
 - ・ エネルギー政策やベストミックスの対話で、将来のおおよそのイメージがつかめたと思う。
 - ・ 自分の将来は研究職につきたいが、新しい原子炉などの研究もできるかなと思った。
 - ・ やはり原子力発電が使用されるようになると思った。
 - ・ 私は医療分野に関わりたいと思っている。その中で放射線を取り扱うことがあるかも知れないと思った。
 - ・ エネルギーを得るためのベストミックスを考えていくと新しいエネルギー開発が必要だとイメージできた。
 - ・ 原子力を今後安全に利用することがエネルギーや技術に貢献すると思ったから。
- ・ 自分の将来につながらなかった。
 - ・ 再稼働できるのか、まだ分らないため。
 - ・ そこまで深くイメージできていない。
 - ・ 自分の知識が足りないこともあり、漠然としかイメージできなかった。
 - ・ まだ分らない。
 - ・ 原子力が対策もされ、安全であることがわかったが、原発を反対している人々はたくさんいるので、将来どのようなエネルギーミックスになるかは分らない。

- 原子力に頼っていくべきなのかなと考えさせられた。
- 時間も限られており、そこまでの話ができなかった。
- 対話では現状を話すだけにとどまったから。
- 話を聞くだけでは自分的に現実性がないから。
- 未知数な部分が多いから。
- 将来についてはまだ迷っている。自分の学科に関連することか、自分が前から思っていたものか迷っている。
- 将来のイメージをするには時間が少ない。
- 100年以上先などの見通しが立たないので。

(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた 8名 (10.7%)
ある程度できた 48名 (64.0%)
あまりできなかった 19名 (25.3%)
全くできなかった 0名 (0%)

「できた」又は「ある程度できた」を加えると、約7割強になる。
が、「あまりできなかった」も3割近くを占める。



<理由>

- ・ 自分達の世代がこれからの原子力を考えていかなければならないと考えるようになっていったから。
 - ・ 日本のエネルギー問題を解決する技術、エネルギーの開発に取り組んでいくこと、正しい知識を広めること、といったことの必要性を感じた。
 - ・ 将来というか、これからは学生である私達に引張ってほしいという熱意が感じられた。
 - ・ 私達が原子力を正しく理解して下の世代に伝えないといけないと思った。
 - ・ これから正しい知識を広げていくこと。
 - ・ 私達が正しい知識を身につけることが大切であると思った。
 - ・ 廃棄物処理や福島原発事故についても長期的な取り組みなので、自分達が今から引き継いでいけるようにするべきと考えた。
 - ・ 若い自分達が今後原子力を考えていく必要があると思った。
 - ・ 正しい知識と理解を身につけ、それを一般の方々にも広めなければならぬと感じたから。
 - ・ 発電の開発と原子力発電、放射線への理解を深めなければいけないと思ったため。
 - ・ 数多くある情報の中から正しいものとそうでないものとを判別して自分のものとしなくてはならない、ということがわかったので。
 - ・ これからの福島を見守り、助け合う義務があると知ったから。
- ・ 対話の内容になかったため。
 - ・ あまりそのような話はしなかったから。
 - ・ あまり関連があるような話はしなかった。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・ 考え方に違いはあったと思う。両極端な自分の考えが少し柔軟になったと思う。
 - ・ シニアの話を書くまでは安全性の問題から原子力を無くした方がよいと思っていた。しかし、ウランのエネルギー密度、他の燃料とのコストの差より、まだまだ原子力に頼らざるを得ない状況が続いていくことを思い知った。
 - ・ シニアの方は原子力の必要性をととても感じているのだと思った。危険性ばかりを取り上げるのではなく、必要性もたくさんの人に伝えないといけないと思った。
 - ・ 僕らがこれから先の子供に正しいエネルギーのありかたについて教えなくてはならない。
 - ・ 自分は原子力は大変危険なものだと考えていたが、エネルギーを得るためには必要な発電方法だとわかったから。
 - ・ 原子力は危険だと思っていたが、一人一人が正しい知識を持ち、判断したり教育したりするべきだと思う、というように考えに変化はあった。
 - ・ 基本的には同じであったと思う。これから原子力の安全性、メリット、デメリット、それを正しく次の世代に教えていくのは自分達であり、その環境も自分達で作りに上げていくべきだと思った。
 - ・ 原子力の安全性と福島現状をよく知ることができ、原発は必要だなど、以前にも増して思うようになった。
 - ・ 自分達のためでなく、後世に生きる人々のために、それぞれの分野で活躍すること。
 - ・ 実際に働く人と学生との間のギャップを感じ、もっと正しい知識を得たいと思った。
 - ・ エネルギー問題は自分達の将来にかかわることなので、自分に何ができるかを考えたい。

- ・ 原発に対する理解の仕方は大きく違いました。
 - ・ リスクに関する認識が違った。
 - ・ マスコミや世論の意見と専門家の意見は大きな違いがあるということ。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・ 本当になかなか聞くことができない貴重な話を聞いてよかった。
 - ・ 対話方式にすることで、自分が身をもって話を聞くことができるため、話を集中して聞くことができた。自分から疑問をもって話を聞かなければいけないと感じた。
 - ・ 今回の対話会を通して、原子力の知識を得ることができて、これからの自分の将来や就職などについて考えることで非常にいい経験になった。
 - ・ 原子力にはあまり興味を持っていなかったのですが、こうした機会です正しい知識と新しい認識を得られたことは自分には大きなプラスとなった。
 - ・ 原発のことについてより詳しく知ることができた。福島事故のあとに日本がどんな対策をとっているか知ることができて、原発はやはり必要だと思った。
 - ・ 原子力は危険なものというイメージが強かったので、今回の対話会で原子力の仕組みや安全性についての話を聞き、原子力についてのイメージが変わった。
 - ・ 放射線については、これまで理解がなく不安なこともあったが、自分自身で情報を判断できる基礎知識が身についた。
 - ・ 本企画を通して、あいまいだった原子力に関する考え方が変わったと思う。しっかりと情報の取捨選択をできるようにならないといけないと思った。
 - ・ もっと少ない人数で長い時間対話ができればよかった、非常に勉強になった、ありがとうございました。

- ・ 学生同士の対話ができなかったため、それを増やしてほしい。あと時間をきちんと守ってほしい。今日の感想だと後輩にはあまり勧められないと感じたので。
 - ・ 原発や火力発電所はどうせなら中をもっと見たかった。
 - ・ 川内に行った後にしたかった。
 - ・ やはりこれだけの内容を詰め込むと時間不足を感じる。